

東奥日報
2020年(令和2年)12月1日(火曜日) (21)

緻密 ミニチュア神社

市内37社取材、データ化し制作

八戸市の八戸工業大学創生デザイン学科の藤田侑可さん(4年)が、3Dプリンターを使い、市内の神社のミニチュアを制作している。ミニチュアは石こう製で、37社分作る予定。現在20個ほどが完成しており、藤田さんは「来年1月に予定している同学科の卒業展示へ向けて、残りの制作も頑張りたい」と話している。(山谷佳澄)

ハエ大 藤田さん 3Dプリンターで



八戸市鮫町にある「三石稻荷神社」のミニチュアを手にする藤田さん

3Dプリンターによる建物ミニチュアは、同大の宮腰直幸教授が進めてきた研究の一環で、今年で3年目となる。

制作に当たって、藤田さんは神社庁のホームページに掲載されている市内の神社のうち37社を約半年かけて一つずつ巡り、写真を撮影したり、宮司に話を聞くなどして取材を重ねた。取材を基にサイズや色などをデータ化して3Dプリンターで出力し、ミニチュアが完成する。

藤田さんは「和風建築に興味があり、神社のミニチュア制作に挑戦しようと思ったが、いざ制作してみると、屋根や細かい格子の部分などがとても難しい」と語った。

宮腰教授は「年々精度が上がっている。細かい部分もこだわって作っている」と話した。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」